

■パイプライン管理状況報告会

平成31年3月12日(火)「平成30年度港地区パイプライン安全管理協議会」が開催されました。港地区内に導管を敷設している関連企業3社(コスモ石油、東ソー、三菱ケミカル)と連合自治会長、連合自治会顧問、パイプライン敷設自治会長で構成されています。1年間のコスモ石油2ルート、三菱ケミカル1ルート、東ソー1ルートについて導管の管理状況の点検報告を受けました。それぞれ「日常点検、定期点検、地震対策」ごとに報告がされました。日常点検及び定期点検の実施にあたっては、関係法令、及び諸規則を遵守し、検査・点検を円滑適正に実施している旨報告がありました。なお、この説明会は、毎年開催されております。

■第56回四日市市消防団消防操法競技大会

令和元年7月14日(日)第56回「四日市市消防団操法競技大会」が開催されました。千歳町周辺の港地区を担当の海上分団も今回の操法競技大会に参加されました。

日時：令和元年7月14日(日)8時30分～12時00分

場所：市民公園(安島一丁目市立博物館東)

千歳地区を担当する海上分団は、発足間もない頃は、曳き船にポンプ等の放水設備を搭載し、海上から火災に備えた「海上」分団。団員は全員が日本トランスシティグループの社員で構成される、全国でも珍しい企業分団です。港地区の安全確保のため団員は職場と同様に団結し、地域の皆様と連携して、真摯に活動に取り組んでいます。

(文及び写真の一部は四日市市消防団本部のホームページより)



開会式



海上分団活躍

**家具の固定化
いたします**
**港第二市民防
まずは、自治会長に
相談してください**

地震に備えるための対策 ～家具の転倒・窓ガラス等の飛散を防ぐ～

- 家具の転倒等による死傷や逃げ遅れを防ぐため、家具を固定する。
- 怪我の防止や避難の妨げにならないよう、ガラス窓や扉には飛散防止フィルムを貼る。

タンス・食器棚
タンスや食器棚を固定し、耐震ラッチや扉面放散防止器具、とめ金や滑り止めシート等で中身の飛び出しを防ぐ。

テレビ・パソコン
粘着マットや固定器具等で、テレビをテレビ台と壁に固定する。

窓ガラス
ガラスの窓や扉には飛散防止フィルムを貼る。

《防災委員》(敬称略・五十音順 自治会長、自主防災隊長、作業部会)

家城 宏光	加藤 亘	清原 茂	近藤 誠	清水 泰次	瀬川 宏	堤 利臣
寺井 勝	豊田 成彦	橋本 幸生	羽多野 隆	春木 秀茂	平尾 隆俊	藤井 俊之
藤村 まさみ	町田 光夫	松田 裕文	松野 郁雄	松本 博光	三浦 恭久	水谷 哲
山崎 佳美	山本 慶太郎	横井 輝重	吉田 正紀	吉田 泰宣		

《防災連携企業》(五十音順)

石井燃商(株)	伊勢湾倉庫(株)	(株)エネックス	おのえ作業所	風薫会
協同海運(株)	九鬼産業(株)	九鬼肥料工業(株)	コスモ石油(株)	佐藤クリニック
三エスゴム(株)	JSR(株)	昭和電工ガスプロダクツ(株)	太平洋セメント(株)	住友電装(株)
第一工業製薬(株)	大成建設(株)	大宗建設(株)	中日本建設(株)	高砂建設(株)
中部海運(株)	中部電力(株)販売カンパニーエネルギー事業部			東ソー(株)
東邦ガス(株)				
東陽興業(株)	日本板硝子(株)	日本海事検定協会	日本カニゼン(株)	日本貨物鉄道(株)
日本通運(株)	日本トランスシティ(株)	(株)ニヤクコーポレーション		林興業(株)
三菱ケミカル(株)	四日市海運(株)	四日市電機(株)	四日市港郵便局	

港地区の世帯数・人口・高齢化率(平成31年4月1日現在) 四日市市 統計情報 年齢別人口(町別・階層別)より 938世帯・1,629人(男809人、女820人)、41%(男34%、女49%)

港 防災だより No.28

2019年(令和元年)12月20日 発行人/四日市市港地区自主防災組織連絡協議会 会長 家城 宏光

『港 防災だより』について 港地区には、防災を考えるうえで多種多様な問題が存在しております。(例：埋立地(地震に弱い)、海岸線(津波に弱い)、臨海コンビナーに近接、住民の高齢化)これらの問題に対処して行く為に重要なことは、住民/企業/行政の相互理解とそれに基づく活動であります。そのためには、日頃、この三者が防災に対する情報を共有し、活動することが重要であり、その一助としてこの防災だよりを発行しております。

平成31年度(令和元年度)四日市港地区自主防災組織連絡協議会 自治会・企業代表者会議 報告

開催日時：令和元年5月17日(金)13時30分～14時50分
 開催場所：本町プラザ 1階ホール
 出席者：防災連携企業・団体(27名) 港地区自主防災組織連絡協議会(17名)
 来賓：四日市市危機管理室2名、四日市市中消防署1名、四日市港管理組合1名、四日市南警察署四日市橋交番1名、四日市市中部地区市民センター2名(合計51名)

1. 家城会長より挨拶(要旨)
この会議は港地区自主防災組織連絡協議会と防災について連携をいただいている企業との総会で「代表者会議」と呼んでいます。自主防災組織の基本的な考え方は、3つの柱を基本原則としています。①港地区の防災対策基地や避難所の運営は共助・協働の精神と自力推進を原則とします。②高齢化と過疎化の進む中、お互いに支えあい、また避難行動要支援者の一人一人に支援の手を届けることを目指します。③各種運営は男女共同参画の視点から行います。これからも皆様のご協力・ご支援をお願いいたします。
 2. 来賓挨拶(要旨)
平成30年を振り返ってみると全国各地で災いが起こった。大阪府北部地震、7月豪雨、北海道胆振東部地震、台風21号では一人が亡くなり広範囲における停電が起こった。そんな中で必要な事はハザードマップの確認。家具転倒防止の措置、備蓄を持つことである。港地区の活動をこれからも続けてください。(危機管理室)
- 議事
- ・平成30年度事業経過報告及び決算報告、監査報告
 - ・平成31年度(令和元年度)組織体制(案)
 - ・平成31年度(令和元年度)事業計画(案)及び予算(案)
 - ・その他事項 通信費、事務費の徴収について
- 加藤副会長及び担当役員より、配布資料により報告・提案があり、いずれも賛成多数により承認、確認されました。



平成31年度(令和元年度)四日市港地区自主防災組織連絡協議会 総会

平成31年度(令和元年度) 港地区自主防災組織連絡協議会総会

開催日時：令和元年6月2日(日)午前9時30分～11時30分
 開催場所：本町プラザ 1階ホール
 出席者：港地区住民131名、連携企業・団体13名
 来賓：四日市市危機管理室 1名、四日市市中消防署港分署 1名、四日市市中部地区市民センター 1名、四日市市立中部中学校 1名、四日市市立中央小学校 1名、四日市市消防団海上分団 1名(合計150名)

1. 家城会長より挨拶(要旨)
人的被害を無くせる様に、「自分の命は、自分で守る」に徹し、あらゆる事に対処出来る様に事前準備をしましょう。私たち協議会は、港地区の住民、企業連携により自主防災体制の確立をはかり、災害に強い町づくりを行う事にあります。皆様のご協力、ご支援をお願いします。
2. 来賓挨拶(要旨)
今年は、伊勢湾台風より60年となります。当時の被害を忘れる事は出来ませんので、何か催しを検討していますのでご参加の程宜しくお願いします。また、四日市市は防災拠点としての整備も進めています。併せて宜しくお願いします。
3. 議事
平成30年度事業経過報告及び決算報告、監査報告、平成31年度(令和元年度)組織体制(案)、平成31年度(令和元年度)事業計画(案)及び予算(案)、その他事項 通信費、事務費の徴収について
加藤副会長及び担当役員より、配布資料により報告・提案があり、いずれも賛成多数により承認、確認されました。要望案件の意見が3点出されました。今後検討することとします。
要望① 休日に訓練を行う事は良い事と思いますが、出勤等で人が少ない平日の昼間に防災訓練を実施して欲しい。
要望② 各組単位での地区見守り活動(共助を目的とした)を行う事が出来ないか
要望③ 小・中学校と自治会が連携して行く必要があると思われる。今後、子供を守る為にも大切な活動と思われる。
加藤副会長より、港地区自主防災組織連絡協議会規約について追記説明があった。
(組織)第4条本協議会は、次の各号に掲げる委員で組織する。(4)減災アドバイザーを追記しました。その他は、変更なし。その他 港第2市民防災隊豊田様より、港第2市民防災隊の「平成30年度事業報告」がありました。

平成31年度（令和元年度） 港地区総合防災訓練

8:30 地震発生（サイレン吹鳴） 《災害想定》南海トラフを震源とする、マグニチュード9クラスの地震が発生。港地区震度6強。伊勢湾に津波警報（大津波）発令。

津波避難訓練

1	各自 身を守るための安全行動をとる	防潮扉 開閉訓練 (防潮扉がある町)
2	避難準備をする（水・避難袋等を持ち出す）	
3	避難をする（ヘルメット、運動靴 着用）	

各町、第一次避難所へ集合

- 各町、町内をまわって被害状況を確認(想定)
- 各町で安否確認(実数)

第1報 8:40頃(目安時間) 第1報用紙を持って先発(本部付情報班員)

第2報 8:50頃(目安時間) 無線で本部からの呼びかけに回答(自治会長・防災隊長) 応答内容は「〇〇町〇〇人で避難します」

＝港地区災害対策本部開設＝

- 総務情報班 ・ 施設班 ・ 救護班 ・ 食料物資班
 - 衛生班 ・ ボランティア班 ・ 女性専用室管理班
- 本部運営者：家城会長 加藤副会長

＝市民防災隊本部開設＝

本部にて集計

- 安否確認数 ・ 避難者数 ・ けが人
- 要配慮者数 ・ 被害状況 等

なやプラザ到着

- 避難者名簿に「氏名」「性別」「年齢」を記入
- 体育館へ入場

集計用紙で安否確認数を報告(各町責任者)

(応急危険度判定士による避難所施設の安全評価)

9:30 避難所運営訓練について説明 他

- 会長あいさつ
- 避難所運営訓練内容説明(各班でリーダー、記録係、発表者、避難者数名を決める)
- 各班で事前ミーティング

食料物資班

なやプラザ到着後すぐにアルファ米調理にとりかかる

10:00 避難所運営訓練(実動訓練)

《被災想定》ライフライン寸断、トイレは配管損壊

◆指令書の内容に従って、各班で実際に行動する 《避難所条件》収容人数110名		本部 連合自治会長 減災アドバイザー 港地区社協会長	市民防災隊	市民防災隊 主に避難所の外での活動		アルファ米調理・小分け 生活雑貨用水の確保 (地下槽から貯水槽へ貯水する)	
総務情報班 連合自治会役員 港地区社協役員 中納屋町 尾上町 浜町二区 各町1名情報班	施設班 南納屋町 千歳町 「なやプラザ」指定 管理者と連携	救護班 北納屋町 浜町一区 西末広町	食料物資班 稲柴町 相生町	衛生班 高砂町 蔵町	ボランティア班 港地区社協 連携企業	女性専用室 管理班 港地区社協(女性) 女性民生児童委員	
・避難者名簿の作成、管理 ・各種情報収集、提供、記録 ・市および企業との連絡 ・苦情受付 ・防犯活動 ・けが人、要支援者、強度のストレスがある人等の要望の聞きとり、対応 他	・施設の管理、修理、改造 ・避難所施設内の保守管理、避難者のための仕切り・ベッド・カーテン等の設置 ・避難者、要支援者、負傷者等の収容先の決定 ・トイレの組み立て 他	・応急救護 ・佐藤クリニックへの搬送 ・けが人等対応 ・薬品調達(購入) ・医師団派遣要請 ・遺体処置に伴う書類整備 (・三角巾での応急手当) 他 *原則、避難所内の活動に限定	・食料、生活物資の請求、保管、仕分け、配給 ・給食、給水 ・必要に応じ自衛隊供給部隊の応援を得る ・物資について各自治会の要望をまとめ関係先に要請する (・炊き出し) 他	・衛生面の管理 ・衛生関係備品の常備、保管管理(紙おむつ、生理用品は女性専用室に置く) ・衛生環境の維持 ・トイレ、ごみ置き場の維持管理 ・遺体引き渡し (・ごみ箱の作成および設置) 他	・住民からのボランティア要請取りまとめ ・ボランティア受入れ、適正配置 ・市社協と連携し行動する 他	・女性(子ども)専用室管理全般 ・要支援者の対応 ・女性、子どもに関わる健康・衛生・安全を管理する ・紙おむつ、生理用品の常備 ・女性、子どもに関わる物資の管理 他	

11:00 各班より成果発表

11:30 市民防によるトイレの組み立て・三角巾の使い方指導

12:00 避難所運営訓練終了

- ◆アルファ米配布・試食

全員で後片付け

総合防災訓練まとめ

目的	①港地区を挙げての実践的な津波避難及び避難所運営訓練 ②マニュアルをベースとした検証型、課題発見型訓練
実施日時	令和元年9月22日(日) 午前8時30分発災～12時30分
場所	なやプラザ体育館とその周辺
参加人数	主会場247名、一次避難所255名
主催	港地区自主防災組織連絡協議会
参加団体	港地区連合自治会、港地区社会福祉協議会、港地区民生委員児童委員協議会、港第二市民防災隊、地元関連企業の方々、減災アドバイザー、中部地区市民センター、危機管理室、海上分団、緊急分隊
実施した訓練	地震津波発生時における迅速な避難 指令書を使用して避難所運営訓練を実施 避難所設営訓練の一つとして「簡易トイレの設営訓練」 三角巾の使い方訓練、無線機の使い方訓練 放水訓練 アルファ米の水での炊き出し・試食(好評)
成果	・訓練を繰り返し行うことにより知識が身につき防災意識が高まった。 ・三角巾の使い方を今年度2回実施しており、適切な使い方を体験できた。 ・避難所運営訓練については、「実働訓練」を中心にを行い一定の成果があった。
課題について	・今回の訓練を通してあきらかになった課題をマニュアルに反映をします。 ・避難所設営に必要な物を備蓄品として備えていきたい。 ・今回主に実施した避難所運営訓練については、マニュアルの見直し作業等で修正・今後の訓練に生かしていきたい。



編集後記 最近思うこと……「大雨・台風19号(10月6日発生)豪雨災害」また「線状降水帯」による局地的な集中豪雨、による被害の広域化・甚大化をもたらしています。この事は、避難の方法を【警戒レベル3】高齢者等避難、【警戒レベル4】全員避難とし、避難のタイミングを明確化しています。【警戒レベル5】命を守る最善の行動を促します。タイムライン(タイムラインとは災害発生の前兆段階から「いつ」、「誰が」、「何をするか」をあらかじめ時系列で整理し、人的被害を最小化するために用いられる防災行動計画です。)タイムラインと警戒レベルの連携により行動計画を作成する必要があります。